

印西市環境審議会からの意見（改訂版）

基本目標	番号	意見
基本目標1 緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して	①	生物多様性を配慮した里山、河川、緑地、公園等の保全と管理を推進されたい。
	②	里山のチョウやトンボなど普通種といわれる生物が減少している今日、イノシシやカミツキガメ等の有害動物中心の対策だけでなく、調査や里山保全など生物多様性を考慮した対策を推進されたい。
	③	斜面林、竹林、湧水地の荒廃が懸念されている。積極的な調査と対策を検討されたい。
	④	斜面林の保存推進を図る方策やそのための指標も取り入れてほしい。
	⑤	市内にはシンボルツリーとなる樹齢数百年になる巨樹が存在しているが、これらの樹木に対する保全策等、自然との共生面からも取組むよう努められたい。
	⑥	ニュータウンや新興住宅地と言われた地域にある樹木も年月がたつと巨樹、巨木になります。ぜひ、巨樹に対する保全をお願いしたい。
	⑦	印西市内には生きた歴史とも言える巨樹や貴重樹木が多く存在しております。これらの巨樹や貴重樹木の現況調査を行うとともに保全活動を推進されたい。
	⑧	自然にやさしい有機栽培や低農薬の農産物を積極的に推進されたい。また、地域の農産物直売所を充実させて地産地消の商品の購入販売について推進されたい。
	⑨	農業法人やNPO数を知ることができるようにする。 (民間の力で、市民農園を増やし、遊休農地を減らせる指標に関連)
	⑩	子供達が身近に感じられる水辺で遊べる親水公園を設けることに努められたい。
	⑪	“生物と共存しよう”については、5年毎に行っている「自然環境調査」の調査結果を報告して、具体的な保護対策に努められたい。なお、自然環境調査は隔年に実施すべきであると考えます。
	⑫	タイトルの実現と実施事項と整合が取れていない面があり、環境指標として適切でない面もあるようですので見直し、新たな環境指標での取組みに努められたい。

※1

※1 事務局案により、基本目標3から基本目標1に変更

印西市環境審議会からの意見（改訂版）

基本目標	番号	意見	
基本目標2 安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して	①	放射線量については、今後もきめの細かい情報発信と食品飲料水の測定機器の活用促進を続けて欲しい。	
	②	引き続き市としても原子炉事故により放出された放射性セシウムについて環境や食品中の値に関心を持ち、広報いただきたい。② 同様にダイオキシン類や有機フッ素化合物についても環境中の値の広報をお願いしたい。 ②意見についての補足 放射線セシウムの空間線量の測定に関しては、値が平準化してきていて測定の意味が失われてきています。福島第一原子力発電所の事故では、四号炉の使用済み核燃料プールの水がプール以外の水が流れ込んでいたため熱で失われることが無く、核物質の全量放出が起きませんでした。印西市も避難区域に含まれる可能性がありました。汚染土、汚染水が大量に残るなか、環境白書にこの項目が存在することはどうしても必要と考えます。	
	③	放射能に汚染された除去土壌を保管している本・支庁の管理状況（放射線量等の調査結果等）についても掲載すべきであり、広報することに努められたい。	※2
	④	師戸川の水質がBODの環境基準を満たさない事や亀成川の水質が悪化しています。合併浄化槽や下水の整備と並行して、直接水路の水質改善の方法があれば実行していただきたい。① ①意見についての補足 河川の浄化については事例としては手賀沼水系の大堀川、大津川で実施されています。またこの頃では水質浄化剤としてアクアサービスという会社のアクアリフトという商品の広告をよく見かけています。	※3
	⑤	師戸川の流量確保のための施策を検討願いたい。	
	⑥	水環境について、水質汚濁の要因の一つである面源系対策も検討されてはどうか。 たとえば、 ・降雨時に汚れた道路表流水が、一気に湖沼に流入することを抑える方策。 ・汚濁の著しい都市排水路の水を一定水量下水へ取り入れる。等	
	⑦	市で行っている浄化槽の簡易検査時に法定検査の受検状況確認も行っていたいただきたい。結果については、県事務所と情報共有していただきたい。	
	⑧	住宅地や公園、道路などの草花樹木を消毒する際には必要最低限の回数・薬剤に留めるようにし、農薬に過敏な人や幼児や児童に優しい配慮をされたい。	
	⑨	浦部川の谷津にはタナゴが生息し小鳥も多くいます。白井市平塚、高西新田方面の谷津には小魚はいない。鳥類も数少ない。残土埋立による事と感じています。これ以上の残土埋立には反対し谷津を守っていききたい。	※3
	⑩	西印旛沼に流入する河川である師戸川、神崎川については水質調査結果を報告しているが、北印旛沼に流入する河川である松虫川、物木落しについても水質調査結果を掲載すべきである。	
	⑪	コロナ禍の安心安全な生活を守るための積極的な施策を推進されたい。	
	⑫	環境指標については、単年度実績なのか累積実績なのか不明な箇所があるので修正されたい。（基本目標4についても同様箇所あり）	
	⑬	南部手賀沼はどうかと思っていた所、先日小さなエビと小魚の煮物が届きました。だいぶ改善され良い環境になっているかと思いました。	

※2 事務局案により、基本目標4から基本目標2に変更

※3 " "、基本目標1から基本目標2に変更

印西市環境審議会からの意見（改訂版）

基本目標	番号	意見
基本目標3 都市としての魅力があ ふれる、快適なまちを 目指して	①	緑地保全の観点から印西市内に緑地について、農地、林地等の分類調査を行い林地については斜面林の割合も明らかにして保全のあり方を検討し、推進されたい。
	②	地域民の協力を得て車に不法投棄防止のマグネットを張りパトロールの強化。耕作放棄地の地主には協力を求めます。（トラロープの設置、草刈、除草剤等）
	③	大型商業施設が立ち並び医療施設も整ってきていますが、車が無いと暮らせない街になっています。公共交通機関や多様な移動手段を整備したり、車で移動しなくても生活できる仕組み作りにも努力いただきたい。③ 既存地域では空き家が増えています。空き家の利用の促進や更地に戻したときの税負担にも検討を加えていただきたい。 ③意見についての補足 乗合タクシーや車での送り迎えをしてくれるボランティアなど、ふれあいバスを補完する交通システムも必要と考えます。市内各施設の送迎バスとふれあいバスの相互運用など、協力いただけたところがあれば検討いただきたい。運転する人が不要なオンデマンドEVで移動する時代が待たれます。またオンライン診療についても望ましいと考えます。
	④	山田橋を過ぎて、酒々井に向かう道路ですが、大型車両通行禁止の標識があるにもかかわらず、頻繁に大型車が通行しているのが現状です。周辺には平賀小、印旛養護学校、順天堂大学とあり、周辺住民にとっては安心安全の観点からも取締りを強化するか策を講じてもらいたい。
	⑤	環境白書に項目が存在しませんが、夜間の照明に関して次の点を指摘しておきたい。星空観測会が市内でも行われているそうですが、四季めぐる星空は自宅にいながら楽しめる自然の一つです。添付した写真は2020年2月28日未明、六軒の自宅ベランダで標準レンズを使用して撮影した天の川中心部の写真です。生活道路などの照明は夜間に視力が下がる方もいますので必要ですが、一部店舗のサーチライト様の空に明かりを投げかけるタイプの照明はやめて行くことができないかと思う。夜間の照明を暗くすると、星空のかすかな明かりを楽しめるようになると思う。

※4

☆

※4 事務局案により、基本目標2から基本目標3に変更

☆ "、その他の意見から基本目標3に追加

基本目標4 低炭素社会の構築に 向けた、地球環境に 負荷を与えないまちを 目指して	①	プラゴミの減量についての具体的対策を示し、取り組んで欲しい。
	②	コロナ渦をふまえ、今後予想される廃プラスチック容器ゴミの増加に対する対応策も必要ではないか。 ・植物由来（自然分解する）の容器使用の推奨など
	③	大型化する台風等への対策とグローバルな視点に基づく温暖化対策の実施を推進されたい。
	④	温暖化が進めば後戻りできない気候の変化が起きます。④ CO ₂ を増やさない、なるべくエネルギーを使用しない生活が求められています。ふれあいバスの利便性を高めていただきたい。プラスチックや食品の廃棄が減るような仕組みづくりを進めていただきたい。家庭用のソーラーパネルや蓄電池への補助を増やして頂きたい。 ④意見についての補足 カーボン・ニュートラルを2050年までに達成ということが目標とされています。温室効果ガスのCO ₂ の増加が止まらず、温室効果がある大気中の水蒸気量が増えて、夏季の高緯度地域の解け残る雪氷の面積は減少しています。いずれも温暖化に寄与するポジティブフィードバック系の現象です。CO ₂ の増加を止めることは急がれる事態と考えます。マイナスの話ですが1993年にお米の取れない年がありましたが、あの時の気温偏差は年だと-0.6℃です。年間平均気温の変動はわずかでも大きな影響があります。もう少し急いだほうが良いと考えます。なるべく化石燃料を燃やさない生活を送る必要があります。
	⑤	低炭素社会の取組みについて、印西市内で事業活動を行っている事業者の取組みについても調査し、保全策の取組みを推進されたい。
	⑥	恵まれた、自然環境と都市機能を持つ本市の特徴を活かした、地域循環型都市を目指す施策を講じそれを指標化されるようされたい。
	⑦	先日の会議終了後、市の職員さんの昼食時間に行き、暗い中で食事、頑張っているんだなと感心させられました。

印西市環境審議会からの意見（改訂版）

基本目標	番号	意見	
基本目標5 環境配慮行動の実践者を拡大し、みんなで環境を育てるまちを目指して	①	コロナ禍で環境フェスタなどの環境イベントが実施されない中、オンライン会議等を積極的に実施し、市民同士及び市民と行政が協働で行える活動を少しでも増やしていくことが必要と考える。	
	②	自然に関する活動を行う市民団体と積極的に連携し環境保全につなげて欲しい。	※5
	③	市の取組みとして環境活動団体数を環境指標に設けておりますが、団体を設立するのは市民自身によるところが大きい。環境指標として適切でないように思われますので、見直し、新たな環境指標での取組を推進されたい。	
	④	市民活動団体を活性化させるための、イベントや支援策を強化し、活動団体数を増やす指標を見直してほしい。	※6
	⑤	市と市民団体の環境関連イベントや講座の情報が、一元的にみられるサイトの運用を検討されたい。	
	⑥	市民が里山地域の自然・歴史・景観知るために、市と市民活動団体のイベント等の情報発信の方法を一元化できるように、努められたい。	※5
	⑦	里山自然の保護・保全策の積極的な展開を図るためには、ボランティアで下草刈りや間伐の実践者（仮称：グリーンセイバー）を養成すべきであり、是非とも推進されたい。	
	⑧	農家の方たちからは旬の野菜や果物の話が聞けるような、子供たちからは見かけた鳥や植物の報告が残せる掲示板があると良い。身の回りの自然に関心を持ってもらえるコミュニティ作りから着手していただきたい。	
	⑨	7年前まで10人で「石尊の環境を守る会」を作って草刈り等しておりましたが高齢化で今は休み中。最近では除草剤でポイ捨てを防いでいます。環境を良くしたいグループは必要です。再度立ち上げの声はあります。	

※5 事務局案により、基本目標3から基本目標5に変更

※6 " "、基本目標1から基本目標5に変更